

0525 市職員ワークショップ（報告）

1. 背景、目的 …裏面参照

2. 概要

日 程：令和 4 年 5 月 25 日（水）13:30～15:30

場 所：安来市役所安来庁舎 3F 防災対策室

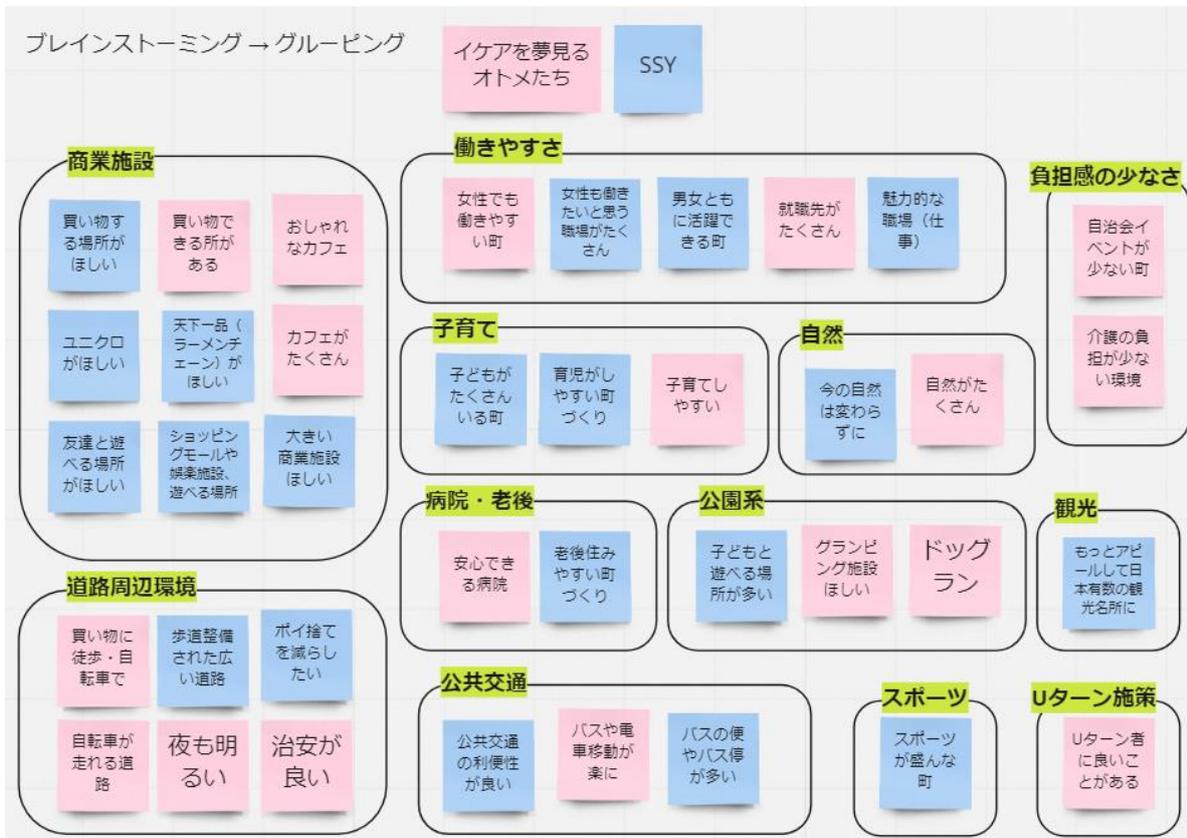
参加者：20～30 代職員（8 名）

内 容：前半：『2030 年、若者が帰ってきたいくなる町』をバックキャスティングで描く

後半：その町は“脱炭素×経済成長”的に GOOD？再エネでどう好転するか考える



3. 結果概要



【A班】2030 ありたい姿：市民が生活しやすい+エネルギーシユな町

再エネ地産地消に資するプロジェクト提案：

- ・公共施設に太陽光パネルを設置して電力をまかなう。
- ・需要に合う電気自動車をメーカーと開発。
- ・充電スポットを充実させ市民の購買意欲向上。
- ・ゴミ袋などをバイオマス由来にする。
- ・土地を借りて太陽光パネルを設置する。
- ・薪ストーブの設置補助金を検討する。



【B班】2030 ありたい姿：SDGs 先進都市 yasugi

再エネ地産地消に資するプロジェクト提案：

- ・市役所、市民体育館、市民プールなどに太陽光パネルを設置して電力をまかなう。
- ・市内交通事業者への電気自動車導入補助金を検討する。
- ・土地がたくさんあって困っている人と植林をしたい団体とを市がマッチングする。
- ・富田山荘の有効活用と絡め、温泉熱を活用した特産品開発などを検討する。

“脱炭素×経済成長”のまちづくり プレ・ワークショップ参加者募集

令和4年5月 部長会資料
市民生活部 環境政策課



オールやすぎで

取り組み

今年度「安来市
再生可能エネルギー
地産地消ビジョン」

を策定します。これにあたっては、若者の声を起点とする*1ことを重視しています。併せて市民、事業者、行政それぞれが「自分ゴト」に捉え取り組む必要があります。その第一段として右記のワークショップを行うこととし、参加者を募集しますので、希望される方は、所属長の許可を得て申込みください。

問合せ：環境政策課環境対策係
永島・太田・景山（内3098）

プレ・ワークショップ

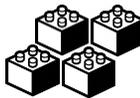
日時：5/25(水)13:30~15:30
場所：安来庁舎3F防災対策室
定員：8名

資格

☑20~30代

☑ビジョンづくりは

“単なる作業”ではなく
“未来を変えるアクション”
であることに共感いただける方



こどもと
泳げる
中海に
したい！

美肌と
健康で
幸せな町

食で目指す？温泉で？
その施設はクリーンな電気
や熱を使っているだろうか？

IT CITY
らしく
eスポーツ
カアしてほしい

都会に負け
ない高賃金
の企業が
増えてほしい

脱炭素に取り組まない企業は
サプライチェーンから排除される
時代。従業員は、就活生は、どこを
見ているだろうか？行政は何をすべき？



背景

約50万年前、
火を発見した頃から
人類とエネルギーの
関係が始まった。

産業革命により
人類は豊かになった。
一方で、化石燃料を
燃やし続けることで
地球が狂いだす。

世界の平均気温は産業革命
前と比べ、すでに約1.1℃
上昇。限界点である1.5℃
に抑えるためには、すべて
の部門で「急速かつ大幅に、
即時に」CO2排出量を削減
する必要がある。

化石燃料を
使い続けることは
経済的にも損失。
安来市では巨額の
エネルギー代金が
市外に流出してい
る。その額、実に

人口規模の
近い雲南市の
流出額は
78億円/年

170億円/年
地域経済最大
の「漏れ穴」

そして本年3月、田中市長が2050年カーボンニュートラルを宣言。

「化石由来のエネルギーを市外から調達する」構造から、
「再生可能エネルギーを地産地消する」構造への転換が鍵。

行政の押し付けでなく、市民、事業者と一体となり
バックカスティングで
ビジョンを描く。

サステナブルで住みよい安来

● 2050カーボンニュートラル！
“脱炭素×経済成長”のまち実現

● 総合計画など各種目標値の達成
地域課題解決・レジリエンス
産業振興・UIターン促進 他

● 温暖化対策実行計画の目標達成

● 当ビジョンで設定する目標達成

ここからRe:START
2023年3月末ビジョン完成

プレ
WS

高校生
WS

公募チームD
ビジョン骨子
をデザイン

公募チームR
アイデアを束束し
ロードマップ作成

策定委員会
外部有識者、市長
等で構成。ビジョ
ンを最終形に



* 1…環境省 令和3年版環境・循環型社会・生物多様性白書から引用

「『コロナ危機と気候危機』とも言われている現在、経済社会のリデザイン（再設計）を進めるにあたって、Z世代を始めとした若者等の将来世代は重要な役割を担っている。そのため、今後の気候変動問題等の政策形成においては、若者等の将来世代の声や意見等を生かすことが求められる。また、若者等の将来世代は、実際に気候変動問題等の環境問題の解決にも積極的に取り組んでいる。」

